

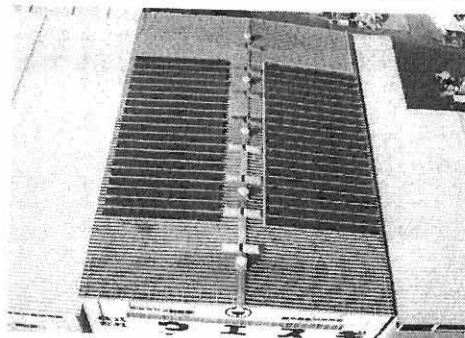
ウエスギ 太陽発電システム導入 消費電力の50%賄う

【名古屋】総合リサイクル企業のウエスギ（本社三重県四日市市天カ須賀新町1-32、上杉吉司社長）はこのほど、環境対応能力の強化をめざし、本社工場に太陽光発電システムを導入した。

同社は環境総合企業として業界のリーダーとして、資源リサイクルだけでなく、エネルギー資源の有効活用を推進している。

その一環として昨年、新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）が主催する「2008年度太陽光発電新技術フィールドテスト事業」の共同研究先に選ばれ、本年1月に太陽光発電システムを設置した。

0平方メートルの採光面を有し、1時間当たりの発電電力の約50%を賄う計画だ。



本社工場に設置した太陽光発電システム

電量は約40キロワットの能力を持つ。事務所内にあるモニターで常に発電状況を確認できる。日照など条件にもよるが、同社が消費する